

脱炭素 共に探究

諏訪市の小中学生が学校や学年を超えて学び合う「すわ未来創造『子どもゆめプロジェクト』」(通称・ゆめプロ)のキックオフ・イベントが13日、同市駅前交流テラスすわつチャオであり、小学生10人と中学生2人が探究的な学びをスタートさせた。野外での体験や調査活動を通じて「ゼロカーボンシティの実現」のために何ができるのかを考え、11月25日に市長と教育長に提言する。

市と市教育員会の新規事業で、基本理念に「誰もが輝き 誰もが幸せ 新たな時代を切り拓き つながり 続ける学びの和」掲げる教育大綱(2023~26年度)に基づいて、三輪晋一教育長が発案した。探究する学びの楽しさを伝え、一人ひとりが自分らしく学ぶ姿を市内各校に広げていく狙いがある。

第1期生は中洲小と豊田小、城南小、四賀小、上諏訪小の5、6年生10人と、上諏訪中と諏訪南中の1、2年生2人。一緒に活動するサポ

諏訪市 小中学生12人「ゆめプロ」始動



ターの高校生は、諏訪清陵高校から13人、諏訪二葉高校から2人が参加した。11月まで全11回開き、諏訪湖や霧ヶ峰でのフィールドワークや会議を通じてSDGsや脱炭素について学び、課題の解決策を仲間とともに考える。

初回の13日は、ポジ@ラボ(松本

市)代表でSDGsに詳しい丸山亜希さん(下諏訪町出身)とウオーキングインストラクターの丸山勇人さんを行役を迎え、5班に分かれて自己紹介を行い、SDGsクイズにも挑戦。楽しみながら親ほくを深め、資源の枯渇や気候変動、少子高齢化などの現状に理解を深めた。

金子ゆかり市長は「未来に向かって自ら考え、行動するプロジェクトです。地球のために何ができるのか、みんなの知恵を期待して待っています」とあいさつ。中洲小6年の長島健之介君(12)は「SDGsのことに興味があって参加した。いろんな学校の人に会えるのが楽しみ。ごみのないきれいな社会にするにはどうすればいいのかここで学び、みんなと一緒に考えたい」と抱負を語った。(唐沢宏)

↑ ボールを使ったゲームで参加理由を語り合い、交流を楽しむ「ゆめプロ」の小中学生たち